

ＣＦＴニュース＆息抜き（12月）

全日本コーヒー公正取引協議会（コーヒー公取協）に寄せられた問い合わせなどを、トピック形式で毎月リリースします。参考になれば幸いです。

1. 2025年11月の気になる問合せ

（1） 業務用製品の表示は、公正競争規約第3条（2）の生豆生産国表示の運用についてなどに準ずるのでしょうか？
何か異なることを聞いたことがあるような気がして問い合わせをしました。業務用の表示について準拠となる資料などあればご教示をください。

（追加質問）

業務用のブレンドコーヒーの場合、生豆生産国名表示は3か国以上のブレンドの場合、2か国は高いものから表示、それ以外はその他で表示。
2か国のコーヒーでブレンドする場合、1か国を表示し、もう一つはその他で可能か？

⇒ コーヒー公正競争規約は原則として対象を一般消費者用に置いています。

しかし、食品表示法は消費者用及び業務用の両者について表示を求めています。参考まで3月の研修会に使用したQ&Aを添付します。

（追加質問について）

2か国ブレンドであれば、2か国を表示されることをお勧めします。業務用と言っても、御社が販売し納入先が消費者向けに販売する時、1か国のみの表示であると食品表示法上の違反となる蓋然性が高くなります。添付した消費者庁Q&A「原原52」に上記趣旨を記載しています。

（3月研修会資料より）

（B to Bによる業務用レギュラーコーヒーの表示に関する問）

(問34)

B to B によりコーヒー焙煎豆を容器包装に入れて販売することになり、相手方より「国内の原料売買において、法的に必要なラベル表示内容」とすることを求められています。この表示内容について教えて欲しい。

当社のコーヒー(粉)製品の表示は以下で行っています。

(例)

品名：レギュラーコーヒー(粉)

原材料名：コーヒー豆

(生豆生産国名：ブラジル、インドネシア、他)

内容量：500g

賞味期限(開封前)：袋下部に記載

保存方法：開封前は直射日光、高温多湿を避け、涼しい所に保管。

使用上の注意：開封後は密封容器に詰め替えていただき、なるべく
お早めにお召し上がりください。

挽き方：中細挽き

製造者：○○株式会社

△△県○○市凸凹町

(答)

容器包装にコーヒー焙煎豆を入れて販売されることなので、食品表示基準第10条に従い、必要表示事項を容器包装に記載してください。

基準第10条は業務用加工食品の義務表示について、一般用加工食品の表示に準じて次の表示を求めています。

- 一 名称
- 二 保存の方法
- 三 賞味期限
- 四 原材料名
- 五 食品関連事業者の氏名又は名称及び住所
- 六 製造所又は加工所の所在地及び製造者又は加工者の氏名又は名称
- 七 原料原産地名（ブレンドコーヒーであれば重量順に国名を記載。）

加えて、コーヒーは計量法の特定商品ですので、食品表示基準第10条は求めていませんが内容量（重量）も記載してください。

(消費者庁 Q&A は省略)

(2) アイスコーヒーとアイスドコーヒーの違いについて、それぞれの定義があればご教授ください。当社で調べてみましたが、明確な定義は見つけられませんでした。以下、調べた内容です。

「アイスドコーヒー」は英語 Iced Coffee の発音表記で、意味としては「アイスコーヒー」と同じ。

ただし日本語としては「アイスコーヒー」が正しい・一般的。規約や表示基準でも「アイスコーヒー」が正式に使われます。

「アイスドコーヒー」は造語または英語寄りの表記で、ブランド・デザイン目的以外では使われません。

⇒ アイスコーヒーについてコーヒー公正競争規約や食品表示基準に定めはありません。ネット上にはいろんなことが記載されていますが、正しいもの怪しいもの様々です。その前提でお応えします。

御社の調べを除いては、貴社の理解で間違いないと考えますが、英語表現としては「iced coffee」が正しいのでしょうか。

英語については疎いですが、昔、名詞に ed を付して形容詞的に「……を持った」などの意になると教わった記憶があります。

近年、米国や北欧にもアイスコーヒーがあると思いますが、多分、英語の表記として iced coffee とメニューに記載されているか、他の製品名称でないでしょうか。コロナ以降のことはわかりません

日本人は英語を自分たちに都合よく変えて使うので、英語圏では意味が通じない、誤解招く単語表現が多々あります。

日本人がアイスコーヒーを英語圏の方に紹介する時は、iced coffee が無難でないでしょうか。

2. コーヒーを巡るいろんな状況

CFT 子はコーヒーの購入価格は上がっているものの飲みたいから買っていた。好きなワインも結構値上がりしているが飲みたいから買う。女房には買はずぎと怒られるが、息子たちはワインはもっと上がるから買った方がよいという。本当の所は自分たちが飲みたいのかもしれない。いずれにしろ嗜好品とはそういうものだと思っていたが、どうもそうではないようである。コーヒー協会の統計を見ると本年 1 ~ 10 月のコーヒー消費は 2 % 程度対前年同期比で減少となっている。減少要因は人口減、若者のコーヒー離れ、カフェや喫茶店利用者の減少、製品価格上昇など様々な要因があろう。

コーヒー消費は国際的にはプラスであり、日本は数少ないマイナス国である。長く続いたデフレで安いことが日本の消費を支えていたのかもしれない。デフレ下の日本では輸入原料使用製品は、国際価格が上昇しても賃金を抑制したり、製造工程見直しで経費を捻出したりの対応で、販売価格を抑えて対応してきたものが、国際的な製品価格にしないと立ち行かなくなり、一挙に国全体が物の価値の見直しに動き、インフレ的状況になったということではないか。とはいえたが、日本の最低賃金は台湾や韓国以下であり、財政・金融なども国際的に見劣りする状況にあるため、円が安くなり輸入依存の食品は容赦なく上がり、コーヒーもこの例外ではない。

加えて、コーヒー産地は気候変動の影響かどうかわからないが、干ばつや洪水に襲われ、これからコーヒー供給に不安材料山積みという状況にある。11月のベトナムのコーヒー産地ダクラックは収穫まじかで致命的とも思える洪水被害を受けており、この影響が懸念される。インドネシアやタイのコーヒー産地も洪水などの影響が出ている可能性大である。

コーヒーの国際価格（ICE相場）は12月に入ってもポンド当たり400センチ台にある。何度も言うがこれほど長期間に渡り高値が続くのは異様で、コーヒー価格が歴史的な見直し期にあるのかもしれない。

トランプ氏はコーヒー好きな米国民が困るとは思わなかつたのか、ブラジルやコロンビアに高関税を課したが、TACOルーマ通り、見直しに動いている。ブラジルやコロンビアの大統領は殆ど動搖しなかつたと言われており、トランプ氏の手法に対する対応方法を百も承知していたということだろう。

本年も残りわずかである。国際社会はきな臭さが強まるばかりで平和な世の継続に不安を覚える。日本のコーヒーは平和が前提で供給されており、これからも毎日楽しみたい。本年は大変お世話になりました。

（2025年12月4日記）